



現場からこんにちは！！



2006 8月 小牧市 安藤邸



家と同色の塗り壁で塀を作製、その上に天然御影石の笠石をのせ見た目の向上と雨垢が付き難い設計にしています。

塗り壁の天敵である雨垢

を防ぎながら高級感を引き出す有効な方法の一つです。

塗り壁と言えども「こて跡」を残さない梨目（凹凸のあるざらざら仕上げ）模様にする事で、高さのある塀でもくどくなく、和風の建築にも違和感の無い塀になりました。

門前の間口を広く取ってあるので車の出入りも今までよりずっと簡単になりました。



門の裏から見るとこんな感じ。

石階段を上ると御影石の重厚な石畳が敷き詰められ、家の顔である門周りを構成している。



門周りにつながる統一されたデザインが家の周りを囲います。

塀の低さに合わせた背の低いフェンスも色デザイン共にバランス良くまとまりました。



めだかが泳ぐ大きな睡蓮鉢を蹲（つくばい）に取り入れました。実用性はありませんが、デザインとしては大変珍しく面白い試みだったと思います。

睡蓮の花が咲く事はさぞかし美しい事でしょう。

大判の乱形板石と防犯砂利を敷き詰めた枯山水庭園。

アプローチの石と石の間には地被植物（セダム）が植えられ石と緑のコントラストが美しく、この工法は比較的成本も抑える事が出来ます。



お庭の紹介快く協力して下さいました安藤様にはこの場を借りて改めて御礼を申し上げます。